

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行 (記録:安藤彰浩、編集:吉田千秋・中川健史) (主宰)吉田千秋 090-7917-9602

2019.10.10 136回 例会

《東京オリンピックは何のため、誰のためのものか?》

オリンピックは夢を求めて楽しめればよい。その通りだが、夢を得るために多くの苦しみ、犠牲もある。この問題は現代日本の根っこを問う作業でもあることが分かったように思われました。

問題提起・吉田千秋

*「岐阜九条の会」主催の“サロン9条”で、フランスの作家フランク・パブロフの著名な『茶色の朝』を扱う機会がありました。<茶色以外のペットは処分するように>という法律が作られ、その内に主人公と友人シャルリーの身の周りで、次々と茶色以外の色の存在が認められなくなっていく。彼らは抵抗を感じたが、理由を見付けて、自分の違和感を無視するようになります。やがて過去に茶色以外のペットを飼っていたことが問題にされ、主人公も逮捕が迫ってはじめて、それまで何もしてこなかったことを後悔するという話です。人々の意識すら一元化しようとするファシズムの危機はそんな形で進行して、気が付く頃は、既に手遅れになっています。

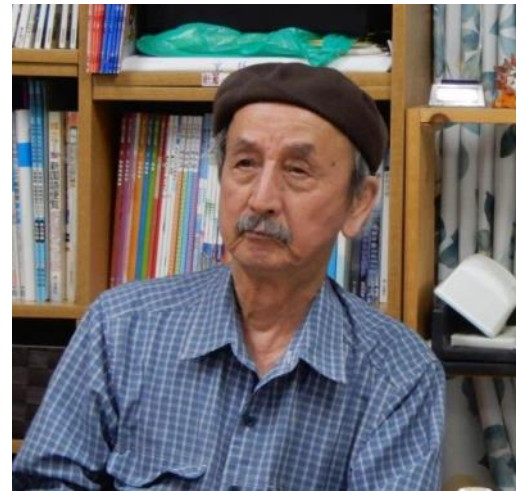
*私たち日本人にも少し耳が痛い話ではないでしょうか。安倍一強と言われる中、特定秘密保護法の例の様に次々と市民の権利の制約が進められています。ファシズムという言葉はちょっと大げさに聞こえますが、ファシズム的な一元的政治の可能性はあると思います。安倍政権が長期化し、重苦しい空気に包まれている中で、多くの人々はものを言わなくなっています。そうした一環と思われるもので、<オリンピック・ファシズム>と呼んでもいい問題を取り上げて考えたいと思います。

*2020年東京オリンピックは、ご承知のように、東日本大震災で被災した福島原発の炉心溶融による放射能漏れの大事故は完全に“under control”である、と述べた安倍首相の嘘から始まり、様々な問題が指摘されています。まずは経費の問題です。招致の際、シンプルで、お金のからないオリンピックを開催する、という約束はなかったかのように進められています。現在の見通しでは最終的に開催費の総額は3兆円で、当初の7000億円程度の見積もりを大幅に上回ることになりそうです。

*戦後からの復興をうたい文句とした1964年の東京オリンピックとパターンは似ています。今回も東日本大震災からの復興五輪であることを看板に掲げていました。しかし、現状では放射能汚染で帰還できない多数の人たちを置き去りにし、被災者の生活再建に必要な資金や資材や労働力がまったく不足しています。国民の納めた税金を使って、土木建築関係の企業など大資本に儲けさせるた

めに、オリンピックを開催するのでしょうか。

*こうした問題への様々な批判の声がある一方、決った以上はごちゃごちゃ言わずに皆で盛り



上げるべきであるとの気運が広がっています。大会中無償で活動する8万人のボランティアが動員されることになっています。実際に、多数の企業や報道機関が協賛団体となっていて、大会そのものに批判的な意見がほとんど聞かれません。

*だが、先にあげたような膨大な開催経費や、「復興」を妨げている問題競のほか、道路建設のために立ち退きを求められた人たちの問題や、一等地に建設される選手村の宿泊施設が開催終了後に、大手不動産会社に激安で払下げられる問題、猛暑の機関になぜ開催になったのかなど、日本のメディアの批判が開催の可否や本質に向けられることはほとんどありません。

*“ファシズムfascism”は「束」を意味するイタリア語に由来する言葉です。そこから、意見の違いを認めず全てを一元的に束ねてしまう、独裁的全体主義の政治を指す言葉として使われるようになりました。いま国民の多数派は、盛り上げて楽しくやればよいという意見で、批判はしにくい雰囲気になっています。だが、諦め気分になって、精神的に引き籠ってしまうわけにはいきません。オリンピック大会の興奮が冷めた後、一体何が残るのか、このことを念頭に、浮上している諸問題について考えてみたいと思います。

意見交流



- * 皆同じ方向を見ている様に見える。誰もへそ曲がりとは思われたくない。異議を唱えるのは難しい。
- * 以前よく耳にしたが、アスリート・ファーストと言わなくなった。大会準備が始まる頃は、まだアスリートの競技に専念できる大会にすることが目標だった。これは土建業界は出来るだけ豪華な施設を作って儲けを大きくしたいと考えたからである。競技そのものと関わりの無い部分にお金をかけている。また作った施設の維持管理にかなりお金がかかる。民間で維持管理に必要な需要を作り出すことはできない。国の財政負担が増えて、日本の国力が更に低下する。
- * マラソンのメダリスト有森裕子氏はアスリート・ファーストの約束が会社ファーストと国家ファーストになってしまっていると、公の場で批判的な発言していた。それがメディアで大きく取り上げられなかった。テコンドー協会では、身内から選手の利益が蔑にされているという批判が出て、内輪揉めになっている。権力、企業、組織の利益が優先されて、選手が放って置かれている。
- * オリンピックが資料にあったように、「インパール(作戦)2020」になって失敗して欲しい。全てが異論を挟む余地なく進められた。内部から日本を変えることはできない。日本は外圧に弱い。だから、放射能問題で韓国など諸外国が自国の選手の安全のために健康リスクのある日本に選手団を派遣することができないと言えば、日本は問題解決に取り組まざるを得なくなる。選手の安全を考えたら、8月はおかしい。何故、酷暑の中で開催されるのか。
- * オリンピックは商業主義の影響で大きく変貌した。それは科学技術の発展で衛星による世界同時中継が可能となった事実と関係がある。これによって世界中の人々が最高レベルの競技を茶の間のテレビで楽しむことが可能

になった。これによって相乗効果が生まれる。オリンピックは益々世界の注目を集めるものとなって、テレビ局にとって商品価値の高いものとなった。オリンピックは巨額の金額が動く商業イベントとなった。IOCの収入の60%がテレビの放映権収入である。米国のNBCが支払う金額は放映権収入全体の半分に相当する。7月、8月は北半球の多くの人が、学生は元々夏休みで、働く人も有給休暇を取っていて、長いテレビ中継を楽しむ時間のゆとりもある。多くの人が時間的余裕があれば、その分テレビ局は高い視聴率を期待できる。夏の暑い時期にオリンピックが開催されるのはそのためである。

- * オリンピックの様な政治絡みの大型事業には懸念を覚える。それで得をする人たちがいるから、事がどんどん進むが、全体の福利となる保証はない。リニアの建設が進行中であるが、問題が山積している。掘り出した土砂をどう処分するのか。リニアは膨大な電力を必要とする。トンネル通過中に停電とかがあったら車両は棺桶になりかねない。
- * 政治とスポーツは切り離すべきだという意見があるが、オリンピックが世界の注目を集めれば集めるほど、オリンピックの場は、政治的意思表示の場になる。メキシコオリンピックで、男子200メートルで優勝した米国の陸上選手が三位になった同僚の選手と共に、表彰台上でうつむいたまま拳を掲げたことが印象に残っている。米国社会は黒人の公民権運動をめぐって暴動などあって、混乱状態だった。
- * 古代ギリシャではオリンピックのために人々は戦いを止めて競技に参加したと言われる。余り知られていないが、メキシコではオリンピックの直前に、虐殺事件(トラテロルコ事件)があった。メキシコは一つの政党の独裁が続いていた。軍と警察が政府の独裁政治に対する学生と民間人の抗議活動を発砲して厳しく弾圧した。30人余りの死者と数百人の負傷者を出す大弾圧だった。その直後にあったオリンピックを平和の祭典と呼ぶことはおかしいと、選手たちは抗議した。
- * 世界の注目を集めるオリンピックはしばしば国家権力や資本に利用される。
- * 障害者の活躍の場としてパラリンピックが持ち上げられることが多い。しかし、そこにも競争主義の考えが持ち込まれ、元の理念がかなり歪められている。障害者スポーツも、一般競技と同じ様な問題を抱えている。
- * 2020年のオリンピック開催が優先事項となっていて、他の事は後回しにされる。批判的なことは言えない空気がある。安倍政権はオリンピック開催の勢いで、憲法改正を

一気に進めようとしている様に見える。政治的利用だと思われる。

* 途上国の視点でオリンピックを考える必要がある。スポーツをする環境が整備されておらず、大きな不平等がある。勝者は常に持てはやされるが、フィリピンなど途上国には十分なスポーツ施設がない。始めから大きなハンディキャップがある。スポーツ連盟の支援を65%の選手が得られないでいる。

* スポーツ会場で見かける「日本、ちゃ、ちゃ、ちゃ」は、日本の選手が活躍すればそれで良いという自国ファーストで、どうも好きになれない。最近では政治の世界で、大国が力に物を言わせて、事を自分たちに有利に進める大国主義が横行している。フィリピンは南シナ海で、島の領有権をめぐる、中国と争っている。国際司法裁判所で、フィリピンの主張が認められたが、中国は判決を無視して、実効支配を続けている。領有権にこだわった前のアキノ政権と違って、現在のドテルテ政権は領有権問題を棚上げして、中国側にフィリピン漁民の漁業権を認めさせようとしている。形式に拘らず実利を取ろうとする弱者の論理で進める方が人々の為になるかもしれない。

* 嘘から始まったオリンピック。『茶色の朝』の様に、黙っている間に意見を言えない社会にならない様にならなければならない。復興オリンピックと銘打っているが、被災者は喜べないと思う。被災した家の人間にとって、隣の被災していない家の者が景気付けと言って「復興バーベキュー」を催したとしても助けにはならない。

* 安倍首相は復興五輪をアピールする目的で、聖火リレーの出発に際して、廃炉作業が行われている福島原発の事故現場を訪れた。ただのパフォーマンスで、助けにならない応援だ。

* オリンピックというと運動会を思い出す。国威発揚とか、国の名誉とか、国家主義が前面に出ると歓迎できないものとなる。今日本でラグビーのワールドカップが開かれているが、ラグビーの世界は国籍条項による出場資格の制限が緩くて、日本チームも半分が外国生まれの選手で、開かれていて、ユニークだと思う。これからの日本社会のモデルになるかもしれない。

* 文化スポーツにおいて成果を求め過ぎると本質が歪められる。なぜ大きな大会が好いのか。芸術の様に、ただ良いものは良い、好きなものは好きで構わないのではないか。

* 建設開発事業で儲けようとする者たちが満州事変の背景にいた。敗戦で一時鳴りをひそめていたが、戦後の日本でも同じ連中が政治家の背後にいて、箱モノやダムなど公共事業等で儲けてきた。今度のオリンピックもそういう連中の影響で、巨大な建設事業になっている。国家の財政を破壊して日本を破滅に導きかねない。

* スポーツの背後に儲ける連中がいるから、オリンピックを止めるべきだとは思わない。会場作りの多くを下請け業者が請け負うことになる。お金が使われることで、中小の建設業者及び、建設関連の様々な事業者に注文が回って行って、仕事ができる。多くの人が大きなイベントに期待することは理解できる。儲け話が悪いことだとは思わない。

* オリンピックが民族主義や国家主義や商業主義に歪められることは確かに問題である。しかしオリンピックは何よりも人々にスポーツの魅力を教える。少し前に哲学カフェでAIの問題について議論した。AIの活用によって、人に代わって機械が労働をするようになる。そうになると、人間は身体を使わなくなって、退化して肉体能力が失われる恐れがある。従って今後運動が益々重要になる。

* オリンピック運動は何度か世界情勢、国際政治に揺さ振られて来た。オリンピックの存在そのものを脅かしたのは何と言ってもボイコット騒ぎである。1980年のモスクワ大会では、前年、ソヴィエト軍がアフガンに軍事進攻して、傀儡政権を作ったことで、米国を始め西側諸国が反発して、NATO諸国を中心に西側の半数近くがモスクワ大会をボイコットしたことで、開催そのものが危うくなった。だがオリンピックの主催者は開催都市であり、政府ではない。だから、各国の選手たちは、国を代表するとしても、政府に派遣される訳ではなく、法的には個人の資格で参加している。ボイコット騒ぎでは、米国を始め、各国政府が、自国のNOCに選手派遣の見送りを呼びかけた。あくまでも呼びかけである。西側の政府は戒厳令でも発令しない限り、個人の自由を制限する権能を持っていない。イギリス、フランス、など多くの政府はボイコットを呼びかけたが、NOCは選手を派遣した。選手が個人として参加しない選択もできる。実際、そういう選択をした選手もいたが、人生を懸けてトレーニングに励んでいるほとんどの選手にとって、オリンピックをパスする選択はあり得なかった。誰も自国を含め国家のためにスポーツをしている訳ではない。モスクワ大会に参加すると言っても、それはアフガンに軍事進攻に対する支持の意思表示



でも何でもなし。参加したほとんどの選手はそういう立ち位置だった。ただ日本のオリンピック委員会は政府の圧力に屈して、選手派遣を見合わせた。イギリスやフランスと対照的な対応だった。オリンピックとは何かを考える興味深い出来事だった。

- * 黒人と白人では適性の違いがある。骨密度が違って、黒人は水泳にはあまり向かないらしい。そのために、水泳で黒人選手を見ることは余りない。対照的に陸上競技では黒人の活躍が目立つ。
- * スポーツは勝ち負けが分かり易く結果がはっきりしている。元は好きだった。男の子はこういうものを好む。皆がルールを守らないと成立しない。スポーツを通じて約束事をしっかり守る規律を身に付けることができる。
- * スポーツは苦手で嫌いだった。練習の名を借りたしごきとかあって子どもがかわいそう。個人的にはスポーツに

余り税金を使って欲しくない。

- * スポーツはしばしば競い合って、勝者と敗者を決め、敗者を排除する形を取る。勝つ子と負ける子が固定すると、負ける子に劣等感を植え付けることになる。負ける子が頭を使って工夫して、ゲームに参加し続ける遊びが望ましい。SPORTの反対はTROPSで、「トロプス」と呼ばれる遊びがある。競争しないスポーツの逆説。権力に対する反骨の精神を示す。負けを作らないのがトロプス。ただ楽しむことを大切にす。



意見交流の最後に・吉田千秋

- * オリンピックについても多様な見方があると思います。オリンピックが人々を魅了して惹きつける力を持っていることは間違いありません。紹介した著書『やっぱりおかしい東京オリンピック』を始め、今日の意見交換では少し否定的な見方が前面に出ていましたが、現実には恐らくもっと肯定的なものが多数でしょう。
- * 最後に紹介された「トロプス」は現在のスポーツを考える上で重要な示唆を受けました。オリンピックとの関係も含め、原点に帰って考えることが必要ですね。
- * オリンピックはこれまで、国家の隔たりを越えてスポーツの普及に大きな役割を果たしてきました。オリンピック運動は元来、国家から独立した民間人の協力によって組織されたものでした。それ故に国家代表たちでは出来ないことも可能でした。スポーツを通じて、政治の制約から自由に運営され、紛争の絶えない国家や民族の枠組みに囚われず、人と人との間に繋がりを作ることもできました。
- * しかしオリンピックが今、巨大化して世界経済の商業主義の枠組みに取り込まれて、元の理念から離れたものになってしまっていることも事実です。IOCは創設時の理念を思い出して、見識を持ってオリンピックを運営して欲しいと思います。
- * スポーツと日本の学校で教科となっている体育は同じではありません。「体育」は戦前兵卒として国のために働ける強い肉体を持った若者を養成することを念頭において、学校教育に組み入れられました。日本の学校にはどこも広い運動場がありますが、これは戦前肉体の鍛錬としての体育を重視していたことの名残です。ヨーロッパの学校には普通広い運動場はありません。

- * スポーツは元来体育とは別物で、国家主義、権威主義、序列主義、競争主義に煩わせれず、あくまで個人として楽しむものです。戦後の教育の歴史は、一旦GHQの指導で、戦前の「体育」教育から払拭された個人の身体の発達を旨とする自由で、自主的な内容をめざしました。だが、東京オリンピックを契機に、様々なレベルでの競争主義が進められ、今では小学校レベルで各競技に全国大会があって、小学生に相応のトレーニングが課されています。スポーツは下の方からも変質してしまっています。
- * オリンピックは世界の最高レベルの競技者が競い合う場です。最高レベルの競技会に参加するためにはもちろん厳しいトレーニングが欠かせません。しかし、スポーツはあくまでも個人の自由意思で取り組むべきもので、そこに国家や組織の利害や思惑が持ち込まれるべきではありません。一人ひとりが楽しむという原点を大切にしなければなりません。一人ひとりが個人として尊重される社会が民主主義の社会で、一人ひとりが心と身体を鍛えることは、民主主義を鍛えることでもあります。
- * スポーツは他人にやらされるものではなく、自分の意思で行うものです。私たちは誰もが自分で物事を考え判断する人間でありたいものです。勝者だけに注意を向けるのではなく、勝てない人たちがいるってことを忘れない様にしなければなりません。また始めから勝負の土俵に上がれない人もいます。スポーツの場に限らず、誰も置き去りにしないで、全員が参加できる様な社会を実現するために知恵を絞る必要があります。何事も権力に任せてしまわないで、批判的な意識を持って社会に横たわる問題にしっかり目を向けて行くことが大切だと思います。

参加者の感想

○オリンピック、今日のお話を聞いていただだけでも幾つかの問題が浮かび上がってきている。設備費の当初目論見からの大幅上昇。東北の災害復旧に寄与しているか。情報資本の利益獲得に利用されていないか。民族主義、国家主義に利用されていないか。などなど問題点ありとして受け止める。若いころはその場に応じて加わっていたスポーツも、今はテレビで見る程度だ。唯一の運動は 散歩(コースを決めて、毎日30分、努めて速足で歩く)である。オリンピックも人類の体力弱化を防ぐために活用したい。
(アダム・スミス)

○ただただ、東京五輪の失敗を願う非国民の自分にとって、いまさら東京五輪に関して言及することはあまりありません。しかし、今回の例会の参考資料にあった[東京インパール2020]というネーミングセンスは面白いなと思いました。アジアの周辺国に対しては威張ってみても、所詮民度の低い土人国家ですね。願わくばマスコミが失敗を糊塗できないほどの大失敗を望みます。そのくらいでない日本人は何が問題であったか解らないだろうし教訓にもならないと思うからです。(たなか)

○私は、オリンピック・パラリンピックの競技にあまり関心がない。たぶん、開催中報道媒体は毎日報道する。開会式から閉会式まで 30 日間になるようです。この 30 日間投入される公費は(招致活動からを含め)民福率を向上させる事ができるか? オリンピック・パラリンピックの開催にかこつけて便利になって綺麗になって楽になった 社会資本をたぶん私は利用しないな。負担だけは負担力のあるなしにかかわらず負うことになる。便利になって楽になって綺麗になって、自由に使えるぜぜコが減る楽しくない日常を私は 望まない。便利過ぎて楽過ぎて綺麗過ぎて自由がない社会より ほどほど便利でほどほど楽でほどほど綺麗な自由を選ぶ。ア

スリートファーストでもなくゼネコンファーストでもなく都民ファーストでもなく自分 ファーストでもなく誰かファーストでもなく地球ファーストでいい。

(こうこうぶん わへい)

○今回のカフェもおもしろかったな。東京オリンピックを切り口にして、参加者が思い思いのことを話す。オリンピックが変質してきた過



程を。「2020年オリンピックと憲法改正」という政治の動き、その夜は眠れなかったと語られる。幼い子どもたちにも勝負を強いるスポーツの在り方。1980年代に提唱されたトレポス。なぜ、日本にはりっぱな運動場があるのか。スポーツとは何か・・・いろんな視点から問題を語る。権力者たちはあらゆる機会を資本家の益になるように、また、国民統制・誘導になるよう利用するという。また、それに抗う個の確立を、このカフェのような場が無数にあって計られていくのだろうと思った。
(尚)

○<体育からスポーツへ> スポーツという言葉が使われ始めています。歴史的には、働くことから離れて働かない、気晴らしをするということがもともなったようです。一定の資産を持つ人々のものであったのが、やがて多くの普通の人々にも広がったものではないでしょうか。過酷な労働から解放されて自分自身を取り戻す機会としたのでは…。半世紀前に次のような記述がありました。「人類の根本的利益を内包する倫理的価値をますます豊かにし、強化することが、複雑きわまる今日の社会情勢を科学的に洞見する能力の強化とともに、歴史の進歩をきりひらく闘いを発展させるであろう。日本の現実はこのような労働者階級を中心とする勤労大衆の倫理的諸価値がますます豊かにされることを必要としている。」と。働く人たちの大切さです。自分自身を取り戻すきっかけになることをスポーツも担っているのではないのでしょうか。観ることも、playも一人ひとりにあった楽しみをしたい。それを満たしてくれる環境を作ることでしょう。「おもてなし(表なし=裏あり)の勘繰り」は、川柳だけにしたいです。
(ひで)



<びっくりWORLDぎふ No.3>

水をめぐる争いは毎年のようにあちこちであった。本美市の真桑地区には真桑人形浄瑠璃があり、毎年春分の日に上演される。この地域に流れていた糸貫川流域の真桑村と席田村でも水の配分を巡って争いが頻繁にあった。井頭(*用水管理人)の福田源七郎は村々と交渉に走る。江戸の評定所にも訴え願いを届け尽力する。村人たちはこの源七郎の功に報いるため、彼が江戸から最後に帰郷した日を選んで繰人形芝居「義農源七郎」を上演したのが起りだという。明治初年にいたるまで、用水の恩恵に浴した2郡16村が、毎年村の石高に応じて経費を負担して上演を続けてきたものだ。それが今も続く真桑人形浄瑠璃である。

ひとつの人形に3人の遣い手、太夫、三味線弾き、人形に衣裳に小道具に舞台に、脚本に楽譜(?)にと、それぞれすべてを江戸期の農民たちが自前で用意し練習を重ね、氏神様に奉納する。国立劇場の文楽とは違った素朴さやほのぼのさがある。また、定番の「蓮如上人一代記」は、蓮如上人に救いを乞おうとする息子夫婦を快く思わない姑が、嫁を折檻し鬼の面をかぶって殺そうとする。迫力満点！興奮きった婆さは急いで家に帰るが鬼の面が顔からはずれない。そうこうしているうちに戸板に載せられた嫁が運ばれ大騒動になる。懺悔する婆さ、そこに蓮如上人が登場する……この時代の嫁の立場は酷なものだったろう。今と変わらぬテーマを江戸期の農民が創作し、伝えようとしてきた。さまざまなことに想いをめぐらす舞台であった。

岐阜県には39の地芝居(地歌舞伎、人形浄瑠璃、獅子芝居、能)保存会があり、農村舞台264棟うち現存140棟で、全国一あるようだ。それぞれの地芝居にはその地域の課題解決や喜びなどをきっかけに、村人たちが専門家集団の力を借りながら、鳴り物入りの演劇を創造したこと、それ

を食べるものを削って費用を捻出し継承してきた。そのことに思いを馳せることが、地域を考えるうえで大切な視点になるような気がする。

芸能の宝庫である東北。

大震災後、家も人々も、舞台も面も衣裳も、流されてしまった地域で、いの一に神楽や虎舞いが祭礼の日に奉納され、離れ離れになっていた人を呼び寄せ、立ち上がったとも聞く。地域がはぐくんできた芸能文化がもつ底力を知らされた。

私はこういったことを職場や地域で嬉々として話すが、変わり者として映るようだ。その地域に住めば、あたりまえの風景や伝統行事であるようだ。“あたりまえ”を言葉にし、価値あることとしてとらえなおすことが、地方を存続させていくうえで大切なことかもしれないね。

(佐藤尚子)



<三陸だより (5)>

～台風19号、ラグビーW杯中止、そして避難訓練～

東日本に甚大な被害をもたらした台風19号は、三陸沿岸にも大きな爪痕を残しました。釜石鵜住居(うのすまい)で予定されていたラグビーW杯のカナダ対ナミビアの試合も中止されました。安全第一であることから、判断はもちろんやむを得ないことではありますが、開催に向けて準備を重ねてきた地元からは落胆の声が聞かれます。

さて、報道されている通り、このスタジアムが建設され

た場所には、釜石市立鵜住居小学校と釜石市立釜石東中学校がありました。しかし、立地は海の近くであったため、両校とも東日本大震災津波で全壊しました。しかし、当時学校にいて教職員が監督した児童・生徒は、全員が高台に避難し、無事でした。これを「釜石の奇跡」とメディアは呼びますが、三陸地方の学校にとっては、これは「奇跡」ではありません。



三陸地方の学校では、避難訓練を年2回行うところが多くあります。なぜ2回なのか。それは想定が異なるからです。火災と津波です。前者は、全国多くの学校で実施さ

れていると思いますが、津波の避難訓練は、高台に逃げるのです。地震発生時、揺れや落下物から身を守ったあと、児童・生徒は上履きのまま逃げます。(筆者は、名古屋のとある高校を訪れたとき、生徒が校舎内をサンダルで歩いていたことに驚いた覚えがあります。皆さんの高校時代は何を履いていましたか?)三陸地方では、子どもたちが校舎内でサンダルを履くことはまず考えられません。気温が低いこともありますが、大事な理由として、高台へ全力で逃げられないからです。

東日本大震災津波から8年となる今年も、三陸地方の学校では避難訓練が行われています。南海トラフ巨大地震による津波が想定される沿岸部の学校のみならず、水害や土砂災害の発生が危惧される地域では、さまざまな想定下での訓練を繰り返してほしいと思います。

(M)

<世界一週貧乏旅 その4> 「アイスランドと光のカーテン」

世界を旅して、どこが一番よかった? この質問を、もう何度聞かれたかわかりません。その時の気分で答えを変えたりするのですが、この国は本当に大好きでまた行きたいと心から思います。今回はその、僕のお好きな北欧アイスランドのお話です。

ノルウェーとグリーンランドの間にある人口35万5千人ほどの島国で、面積は北海道と四国を合わせたくらい大きさです。アイスランドといえば、世界最大露天風呂、間欠泉、ラム肉、地表が火星とほぼ同じなど、よく話題になりますが、中でも今回ぜひ紹介したいのがオーロラです。

2014年10月前半、アイスランド到着4日目の夜に僕はバスツアーで国立公園へ向かい、真っ暗な中オーロラが現れるのを待っていました。アイスランドは比較的気温の高い時期にオーロラを観ることができ、ツアーバスも出ています。ただオーロラは気象条件が揃わないと観ることができないので、ここまで来たものの観られるかどうかは少しギャンブルなところがあり、オーロラツアー自体も当日観られなければ翌日にもツアーへ参加できるという..

広大な平地で吹きさらし、凍える極寒の中、待っているとぼんやりしたモヤのようなオーロラは観えたりしたのですが、はっきりしたものはなかなか観ることができません。これはだめかもなあ…と諦めかけていると、突然ツアー客達から歓声が上がりました。驚いて空を見上げると、頭の真上にとても大きな緑色のオーロラがゆらゆらと揺れていました。まるで、カーテンが風で揺れ動いているようだったと思いました。



そのオーロラは緑色の光がグラデーションになっており、信じられないほど巨大で、それでいてゆっくりふわふわと光が揺れる姿は優雅にすら思えるほどでした。足の指が寒さでキリキリしていましたが、オーロラの美しさに寒さを忘れるほどに僕は立ち尽くしたまま感動しました。これはきつと、写真や映像では得られない感動なんだろうなと感じました。

「今までどこが一番よかった?」という質問に僕は「アイスランド」と答え、そのあとはいつも決まって、「あのね、本当にこれは言えるんだ。オーロラは一生で一度、必ず観た方がいい!」とおすすめています。

(カモノハシタニ)

2019年後半 **哲学カフェ、第23期の予定**場所 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」
例会は19:00～21:00です。

第134回例会 8月8日(木)	「参議院選挙の結果から何を学んだのか？」 * 7月21日の参議院選挙の結果、自公政権与党は過半数を得た。だが、最大の焦点だ の2は維持できなかった。この選挙から私たちは何を学んだのか。	終了 しました
第135回例会 9月12日(木)	「老人も若者も信頼できる年金制度とは？」 * 「100年安心」と言われた現行の年金制度は維持が危ない。年金でしか生活できな 将来に不安を抱える若者たち。両者が信頼できる仕組みは可能か	終了 しました
第136回例会 10月10日(木)	「東京五輪は一体何のため、誰のためのものか？」 * もともとウソで始まった東京オリンピック。「節約に努める」との約束も反故にし、一 大、儲けのための、巨額投資。一体何のため、誰のためのものなのか	終了 しました
第137回例会 11月14日(木)	「子どもの虐待が増えているのはどうしてか？」 * 最近子どもの虐待が増えている。どうしてこんなことになったのか。障がい者への差別、いじめ につながる人権軽視の大きな流れの一端なのか。真剣に考えてみたい。	
第138回例会 12月12日(木)	「日本の男女平等はどうして進まないのか？」 * 参議院選挙で女性の当選者は18名で過去最高タイ。でも、世界ランク130位。 2018年調査で、 総合指数で世界110位。どうしてこんなに進まないのだろう。	

哲学カフェの運営資金の協力 も、よろしくお願ひします。 □座記号・□座番号 00810 1 142912
加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫
「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !! <http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>
または「哲学カフェ岐阜」で検索

- ★毎朝新聞を見るたびに、一体日本はどうなるのかと思うような、やるせないというか、情けないというか、腹の立つ、目を覆いたくなるような報道に、絶句している。
- ★神戸市の複数教員(女性を含む)が一人の若い教員をいじめていた事件、福井県原発行政と絡んだ高浜市元助役による、多額な金品の政・財・官界への流入、小泉新環境相の地球温暖化防止に対する軽薄な発言等々、枚挙に暇がない。
- ★消費税はついに10%に達し、年金支給の目減りも感じているこの頃、鬱鬱とした気分襲われる中、最近の日本のスポーツ選手の国際レベルでの活躍には、清涼感を覚え、救われる思いがする。
- ★今一つは、最もホットなニュースとして今年も日本人科学者にノーベル化学賞が授与されたことである。
- ★受賞者の吉野彰博士の業績は「リチウムイオン電池の開発と実用化」ということであるが、今や世界中の人々がリチウム電池を使った「スマホ」や「パソコン」でお世話になっていない人はいないくらいである。今後さらに、ET革命への発展が期待されている。
- ★ご本人も言っておられるが、受賞決定が遅かったくらいである。博士の笑顔は実に爽快で、すがすがしい。金とスキャンダルにまみれた、政治家、財界人、行政官等の顔つきとは雲泥の差がある。

(島田幹夫)

わいわいがやがや
アラカルト